

---

# 愛とは呼べない、何か。

九九ノ字 佳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛とは呼べない、何か。

### 【Nコード】

N1662Z

### 【作者名】

九九ノ字 佳

### 【あらすじ】

甘やかされ過ぎた私の感情。

大好きな人がいた。

その人は心配性で過保護で私をべたべたに甘やかす人で。

そんな性格が好きだったのか、本当は顔が好きだったのか、今じゃわからないけど

本当に大好きな人だった。

悲しいときはそばにいて

嬉しいときは共に笑って

怒ったときは私を癒して

まるで、私を守ることが一番大事だと言わんばかりの人。

その人はもういない。

いない？

いや、それは間違いかも知れない。

あの人は今でも

私にそうであったように誰かを甘やかしてるんだろっつ。

私の方が限界だったんだ。

私は普通で普通な心を持った人のはずなのに

彼の前ではまるで着せ替え人形や愛でるためのペット同じ扱いだった。

いや、それは少し違うか。

あの人は人を動物の粹に当てはめて見ているんだから。自分も動物。私も動物。

だから、彼の態度はある意味、オスがメスを守ろうとする行動だったのだ。

私はあいつのその態度に嫌気がさした。

だから、だから、あいつと別れたんだ。

だけどね？

私が彼なしで生きていけるほど

彼の甘やかす行為は生ぬるくなかった。

べたべたに甘やかされ過ぎた私の思考回路は

もう正常には動かない。

私は結局、彼を選ぶしかないんだと思う。

私の心でそれを否定しても隅っこの方でわかってた。

間違いなく、必ずと言っていいほど

私はまた、彼と付き合うだろう。

と、本当はわかってた。

だけど、いまだに私はそれを認められないでいる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1662z/>

---

愛とは呼べない、何か。

2011年12月5日22時51分発行